

4. 宮崎県

4. 農産物の輸出に特化しているため、国内向けの野菜や畜産の生産額は極めて低い。

4. カルデラ

4. 急峻な山間部の地形を活かし、霧の発生しやすい環境で手摘みによる高級茶生産に特化している。

4. 大分県

4. 鹿児島県

4. 土地に含まれる火山性の成分が米の根を枯らしてしまうため、植物の栽培自体が不可能だったから。

4. 大分県

4. 九州山地から流れる急流を活かした水力発電が盛んで、その安価な電力を利用して沿岸部ではアルミニウム工業が発達している。

4. 台風による塩害を防ぐため、海水の混入しない深層の真水を確保するため

4. 広大な平野を利用した大規模な稲作が行われ、農産物の加工業が発展しているため

4. 活火山周辺では噴火による降灰被害を防ぐため、広大なカルデラ内は居住や農業が厳しく制限され、主に無人の発電施設のみが設置されている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 鹿児島県	鹿児島県は、火山噴出物が積み重なってできたシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪い ため稲作には不向きな土地が多く存在しました。そのため、畑作や畜産が発展し、現在では豚 、肉用牛、ブロイラーの飼育頭数が全国トップクラスとなっています。農業産出額の6割以上 を畜産が占めるという構造は、全国的に見ても非常に顕著な特色です。
問2	答え 1 野菜と畜産の両方で高い産出額を維持してお り、多角的な農業経営が実現されている。	熊本県は、阿蘇の外輪山周辺での畜産や、平野部での野菜栽培など、多様な地形を活かした農 業が行われています。統計においても、野菜（1,247億円）と畜産（1,147億円）という、本 来は異なる形態の農業が共に出色な数値を記録しており、バランスの取れた産出構造であるこ とが、地域の農業の安定性と強みにつながっています。
問3	答え 4 カルデラ	阿蘇山は世界最大級の陥没地形を持つことで知られています。大規模な噴火が起こると、地下 にあったマグマが地上に大量に放出され、地下に巨大な空洞ができます。その空洞を支えきれ なくなった地表が重みで崩れ落ちる（陥没する）ことで、特徴的な鍋型の地形が作られました 。
問4	答え 2 シラス台地などの広大な平坦地を活用し、大 型機械を導入した効率的な大規模生産が行わ れている。	鹿児島県の茶生産は、広大で平坦なシラス台地の地形的利点を活かしている点が大きな特徴で す。乗用型の大型摘採機などの導入による機械化が進んでおり、労働生産性が高いことが生産 額の増加につながっています。また、温暖な気候を活かして全国で最も早く新茶を出荷できる ため、単価が高くなりやすく、生産額で1位となる要因となっています。
問5	答え 3 佐賀県	九州地方の北西部において、福岡県と長崎県の間に位置し、北と南で異なる海（玄界灘と有明 海）に面しているのは佐賀県です。南側の有明海は遠浅の干潟が発達しており、ノリの養殖が 盛んである一方、北側の玄界灘は対馬海流の影響を受けるなど、一つの県の中で多様な自然環 境を有しているのが特徴です。
問6	答え 4 鹿児島県	鹿児島県はシラス台地が広がる地理的特性から、古くよりサツマイモの栽培や、豚・茶などの 生産といった畜産業・畑作が非常に盛んです。第1次産業の就業者割合が全国平均と比べても 高く、豊かな農畜産物を原材料とした食料品加工業が地域の製造業の中心を担っているため、 製造品出荷額でも食料品が第1位となっています。
問7	答え 1 土壌の粒子が粗く水はけがよすぎるため、稲 作に必要な水を地表に蓄えるのが難しかった から。	シラス台地を覆う火山噴出物は、水が地下へ浸透しやすい（水はけがよい）という性質を持っ ています。このため、常に水を張っておく必要がある水田稲作には不向きな土地柄でした。そ の結果、厳しい土地条件でも育つサツマイモの栽培や、広大な台地を利用した畜産業がこの地 域の特色ある農業として確立されました。
問8	答え 1 宮崎県	宮崎県は、隣接する鹿児島県とともに日本有数の畜産地帯を形成しています。特に肉用牛の飼 育が盛んであり、広大な土地と暖かい気候という条件が、大規模な畜産業の発展を支える背景 となっています。
問9	答え 2 薩摩半島と大隅半島に挟まれた湾の中に桜島 という活発な火山があり、周辺の台地では肉 用牛や豚の飼育が盛んに行われている。	鹿児島県は薩摩半島と大隅半島という二つの大きな半島を持ち、その間にある鹿児島湾（錦江 湾）には現在も活発に活動が続ける火山である桜島が位置しています。県内には火山活動に由 来するシラス台地が広く分布しており、その土地条件に適応する形で肉用牛や豚の飼育頭数が 全国トップクラスになるなど、畜産業が非常に盛んなのが特徴です。促成栽培やピーマンの生 産で知られるのは主に宮崎県や高知県などの事例です。
問10	答え 1 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良 く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要が あるため	南九州に広がるシラス台地は、過去の火山活動による火砕流堆積物（シラス）で構成されてい ます。この層は非常に厚く、かつ粒子が粗いため水はけが良すぎるという特徴があります。そ のため、雨水はすぐに地下へ浸透してしまい、地表付近で水を得ることが困難です。生活用水 を確保するためには、この厚いシラス層を貫き、地下水が蓄えられている「帯水層」に到達す るまで深く掘り進める必要がありました。
問11	答え 2 亜熱帯の気候や独自の文化を活かした観光業 が、県の経済を支える中心となっているため	人口密度が約632.7人/km ² で第3次産業の割合が80.7%というデータは、沖縄県の特徴を示し ています。沖縄県は美しい海や温暖な気候、首里城に代表される独自の歴史的背景を活かした 観光・サービス業が非常に盛んであるため、他の産業に比べて第3次産業の割合が突出して高 くなっています。
問12	答え 2 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が 存在するため、これを取り出してタービンを 回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つ として活用されている。	地熱発電は、火山付近の地下にあるマグマの熱で温められた水蒸気を利用して発電する仕組み であり、二酸化炭素の排出が少ない再生可能エネルギーとして注目されています。阿蘇山のカ ルデラ内には多くの人々が住み、農業も行われているため「居住が制限されている」という説 明は誤りです。また、シラス台地は養分が乏しく水持ちが悪いため、かつては農業に不向きな 土地とされていました。北九州工業地帯の発展は、火山地質よりも筑豊炭田の石炭と中国大陸 からの鉄鉱石輸送の利便性が主な要因です。